

2025年12月1日現在

株式会社農林漁業成長産業化支援機構

○ 出資決定済食品等流通合理化事業者一覧

出資決定時期	食品等流通合理化事業者の名称	所在地	A-FIVE出資決定金額 (※1)	事業内容	政策的意義	備考
2020年10月	株式会社農業総合研究所	和歌山県 和歌山市	360.0百万円	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の卸売事業者が農業者及び小売事業者(スーパー等)に対して、IT技術を活用した農産物の流通プラットフォームを提供する事業 ・大規模出荷にも対応可能とする物流整備に加え、IT技術を活用した需要観測・受発注及び在庫管理システムの機能強化を図ることで、生産者の利便性・収益性向上、サプライチェーン全体の最適化を目指すもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーコード発券システム、生産履歴システム、双向コミュニケーションアプリなど新技術の活用 ・生産者の利便性・収益性向上、サプライチェーン全体の最適化 	2024年9月13日 支援終了 (株式は第三者に売却)
2020年3月	株式会社いづみホールディングス	北海道 札幌市	449.9百万円	<p>水畜農産物卸売会社である「株式会社いづみホールディングス」がブロックチェーンを活用する食品流通を含む企業間取引を一元化するスマート決済プラットフォームを提供することにより、事業者のキャッシュフローの最大化、与信リスクの軽減、業務効率の改善、一次產品のより活発な取引を推進するとともに、利用事業者の資金繰りの改善、伝票入力の効率化、ペーパーレス化、与信枠設定・未入金管理等の効率化を総合的に解決し、卸売業界の課題解決を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者のキャッシュフロー改善 ・事業者間の与信リスク軽減 ・業務効率の改善 ・1次產品の活発な取引の推進 	2025年11月28日 支援終了 (株式は会社に売却)
2019年3月	株式会社クラハシ	広島県 福山市	547.2百万円	<p>地方卸売市場の水産物卸売会社である「株式会社クラハシ」が、漁業者と連携して集荷後低塩分飼育水やナノバブルを用いた水槽で、活魚を備蓄すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2麻酔コンテナで効率的な活魚輸送を行うこと により、備蓄による供給量の確保と魚価の安定化を図るとともに、遠隔地まで鮮度を保持したまま効率的に輸送を行うことにより、鮮魚のブランド化・高付加価値での販売と流通の合理化を目指す事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄による供給量の確保と魚価の安定化 ・活魚輸送のコスト低減 ・商品の高付加価値化、遠隔地への販路拡大 	2021年12月24日 支援終了 (株式は会社に売却)

※1 出資決定額は小数点第2位以下は切り捨て。